

公民館だより なかがわ

第496号

令和6年3月1日
発行 中川地区公民館
TEL.Fax : 679-2501



令和6年度会員募集!



4月からスタートする各種会員を募集します
(詳しい内容は、地区回覧チラシをご覧ください。)

各 会	開催月・曜日など	年会費・参加費・その他
グラウンドゴルフ愛好会	4月～11月・毎週月曜日	年会費 1,000 円
ラージピンポン愛好会	通年・毎週木曜日 (月4回程度)	無料
スポーツ麻雀愛好会	通年・毎週木曜日 (月4回程度)	無料
ウォーキング教室	4月～10月 (8月除く)・月1回	内容により参加費あり
そば打ち教室	通年・月1回	材料代 500 g 500 円
詩吟教室	通年・月3回	無料
パソコンクラブ	通年・月1回	無料 12名まで

参加者募集

おらせ

体験スポーツ教室「モルック」

日 時 : 3月15日 (金) 10:00～11:00
場 所 : 中川地区公民館 集会室
対 象 : 中川地区民 15名程度 (定員になり次第、受付終了)
参加料 : 無料
※詳細は、地区回覧チラシをご覧ください。

令和6年度の【一般講座】は
5月より開催いたします
(4月の館報にて募集)

お申込み・お問合せ : 中川地区公民館 (☎679-2501)

3月・4月 行事予定

3/1(金) 市報・館報・福祉村だより	4/1(月) 市報・館報
3/4(月) 施設訪問・会長会・公民館運営協議会	4/2(火) 会長会総会・協議会総会・中川地区合同懇談会
3/5(火) そば打ち教室	4/5(金) 粋いき倶楽部代表者会議・主事部体育部合同会議・体育部会
3/6(水) 中川食改総会	4/8(月) 中川小学校、北中学校入学式
3/8(金) パソコンクラブ	4/9(火) 福祉村実行委員会
3/11(月) 中川地区監査	4/12(金) パソコンクラブ・子ども会育成会
3/12(火) 一般講座「春のフラワーアレンジメント」	4/16(火) そば打ち教室
3/13(水) 会長会・公民館運営協議会	4/19(金) 中川地区戦没者追悼式
3/14(木) 北中学校卒業式	4/22(月) 中川福祉村村議会
3/15(金) 体験スポーツ教室「モルック」	4/23(火) ウォーキング教室 (職員不在時間帯あり)
3/18(月) 中川小学校卒業式	4/24(水) 地区公民館職員合同会議 (職員不在時間帯あり)
3/19(火) 令和6年度新会長会顔合会	4/26(金) 上山市地区会長会議

詩吟教室 (火曜日) 3/5、12、26
ラージピンポン愛好会
(木曜日) 3/7、14、21、28

スポーツ麻雀愛好会
(木曜日) 3/21
(土曜日) 3/2、16

令和5年度「笑い与健康のつどい」開催！



2月3日（土）中川地区会長会主催の「笑い与健康のつどい」が開催されました。昨年までは感染症対策のため、一般公募ができませんでしたが、今年は館報やチラシで参加者を募り、多くの方に来ていただくことができました！初めに、主催者である中川地区会長会 鈴木 英明 会長よりあいさつと講師紹介をしていただきました。今年は3名の講師をお迎えして開催です！

トップバッターは、ほんわりと滑らかな口調で聞き取りやすい声の、濃紺亭 らん朝 師匠の「ん廻し」。2番目は昨年も来ていただいた現役大学生、遊歩亭 千早 師匠の「笑い茸」。仲入りを挟んで3番目は、しっかりとした話しぶりとユーモラスな所作で人気急上昇、走風亭 満月 師匠の「酒と恩返し」。トリは本日2回目、濃紺亭 らん朝 師匠の「代書屋」で、歌唱力抜群の素敵な歌声も披露していただきました。それぞれ個性豊かな話しぶりで終始会場を沸かせ、笑いの渦となってあっという間の時間となりました。遊歩亭 千早 師匠の話の中に“笑う門には福来たる”が出てきましたが、“笑いは百薬の長”のことわざもあるように「笑うこと」が脳に刺激を与え、病気に対する免疫力をアップさせるとも言われています。たくさん笑って福と健康を手に入れ、今年1年の活力になってもらえれば！と思います。

濃紺亭 らん朝



遊歩亭 千早



走風亭 満月



出前スポーツ教室「ヨガ & リンパケア」

2月9日（金）、出前スポーツ教室3回目の「ヨガ&リンパケア」が、鈴木 希望先生指導のもと開催されました。初めに、心と体は繋がっているもので、しっかりと心の声を聞いてあげることが大切、体が硬いとポジティブな気持ちが入りにくいなどのお話を聞き、寒さやストレスで凝り固まった部分をヨガのポーズをしながら十分にほぐしていきました。後半は、便秘にも効くというリンパの揉みほぐしをしていきました。終わるころには、体がぽかぽかになりました♪



わんぱく広場「雪と遊ぶ会」



1月26日(金)、わんぱく広場「雪と遊ぶ会」が公民館広場を会場にナイター設備を使い、参加者40名で開催されました。今季は暖冬で雪がなかなか降らず心配していましたが、当日までに降った雪で広場は真っ白に!! 楽しく雪遊びが出来ました。スノーフラッグゲームや宝探しゲームでは、思いっきり雪の中に飛び込み『冷た〜い』『ちょっと待って〜』『何処にあるの?』『もっとやりた〜い!』と終始歓声が途切れることなく聞こえ、楽しく過ごす事が出来たと思います。最後に館長とじゃんけん大会! 来年もまた開催したいですね。お手伝いいただいた皆様、ご協力ありがとうございました。



中川地区子ども会育成会連絡協議会 反省会



2月16日(金)、中川地区子ども会育成会連絡協議会の反省会が行われ、多くの感想・意見を伺うことができました。令和5年度は、ピザ作り体験教室、少年少女球技大会、ミニバスケットボール大会、雪と遊ぶ会などに多くの子供たちが参加してくれました。会議での意見を取り入れながら、来年度もより良い事業を開催していきたいと思います。各地区子ども会育成会会長の皆様、ありがとうございました。

【一般講座】館外講座「芸術鑑賞」

2月20日(火)、一般講座の館外講座『芸術鑑賞』が開催され、午前中はフォーラム山形で『身代わり忠臣蔵』を鑑賞しました。実力派俳優のムロツヨシが、主人公吉良孝証と兄である吉良上野介を身代わり役として演じる痛快時代劇エンターテインメント。笑いあり感動ありで、参加した皆さんから「おもしろかった〜」「感動した〜」との声が聞こえてきました。お昼は「味工房すず」さんで美味しい昼食をいただき、楽しい話で盛り上がり、そして午後からは「山形県郷土館文翔館」に行きました。ガイドボランティアさんに館内を案内していただき、詳しく説明を受けながらゆっくりと見学していき、とても充実した一日となりました。



おらほの中川〈地域の話題シリーズ 第百八十五弾〉

「昭和考、問わず語り（その37）」

甲石地区 高橋 正之

昭和六年九月勃発した柳条湖事件を巡り、陸軍中央では、一時不拡大方針を決めますが、参謀層の反発に遭い、閣議に提議できずに推移します。本稿では、そうした空白な時間を押して独断専行する関東軍の動きとそれを追認する政府について記述します。

〈関東軍の謀略的占領拡大〉

関東軍の石原・板垣らは、当初から全満州の軍事占領を企図し、そのための日本側利権鉄道沿線の拠点確保を目指した。

しかし、張学良の指揮する東北边防軍の総兵力約四十五万に対して、関東軍の兵力は約一万であり、全満州占領には朝鮮からの兵力増援がどうしても必要だった。また柳条湖事件当時、張学良は軍主力十二万を率いて蔣介石援助のため北平（北京）に滞在していた。

そこで、石原・板垣らは、長春東部の吉林に、謀略によって不安状態を作り出し、それを口実に吉林に派兵することで、意図的に満鉄沿線を手薄にし、朝鮮軍の越境を誘おうとした。

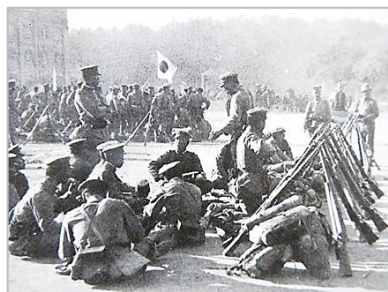
九月二〇日、吉林において特務機関（諜報特殊工作を担当）による破壊工作が行われ、日本人居留民会長より保護を求める出兵懇願が出された。

これを受けて、関東軍の参謀たちは、居留民保護のため緊急の吉林派兵を本庄関東軍司令官に求めたが、本庄は、吉林派兵には軍中央の許可が必要と考え、同意を与えなかった。しかし、本庄は、板垣・石原らの真夜中数時間におよぶ執拗な説得を受け、午前三時、ついに独断派兵を了承、第二師団に吉林への進出を命じた。

二一日午前九時五〇分、装甲列車を先頭に第二師団主力が長春を出発。中国側からの特段の抵抗もなく、同日夕刻には、吉林に入った。関東軍は、満鉄沿線外には条約上駐兵権を有しておらず、権限を越えた出兵だった。（写真①②は、吉林を占領した関東軍の兵士）

〈朝鮮軍の独断越境〉

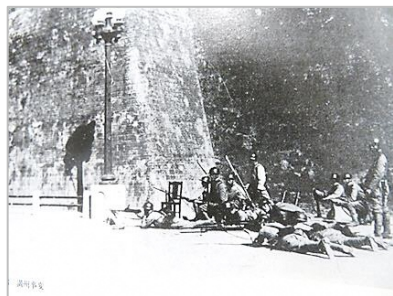
この関東軍の吉林出兵にに応じて、林朝鮮軍司令官は、独断で混成第三九旅団に越境を命じ、二一日午後一時、部隊は国境を越え満州に入った。天皇の許可なく軍司令官が部隊を国外に動かすことは、重大な軍令違反であり、陸軍刑法では死刑に相当するものであった。（写真③は、朝鮮軍の兵士）



（写真②）



（写真①）



（写真③）

〈天皇へは、越境の事実報告にとどめる〉

越境の知らせを受けた参謀本部は、参謀総長の単独帷幄上奏（いあくじょうそう、軍の統帥機関が軍令事項について首相の補弼を経ずに直接天皇に伺うこと）によって天皇から直接朝鮮軍派遣の許可（事後承認）を得る方針を決定し、午後五時過ぎ、南陸相に内示の上、金谷参謀総長が参内した。朝鮮軍の満州派遣それ自体は、有事の際の作戦計画に基づくものであり、緊急事態時のやむをえない処置だとの見解からだった。

ところが、上奏直前、永田軍事課長の反対にあい、派遣の許可を得る件はとりやめ、独断越境の事実のみの報告にとどめた。その理由は、「経費支出を伴う増派に際し、閣議の承認を経ることなく統帥系統のみによる帷幄上奏をなす」のは極めて不当である、というものだった。

〈内閣の追認、天皇の裁可〉

この日（二一日）の夜、陸軍内で翌日開催予定の閣議への対応が検討された。内閣や民政党が林朝鮮軍司令官の独断越境命令を大権干犯とみなしているとの情報から、対策が協議されたのである。

そこで、今村作戦課長は、もし閣議で大権干犯とされた場合には、陸相・参謀総長ともに辞職すべきであり、その方法としては、まず参謀総長が単独辞職すべきと主張。永田軍事課長は、陸相・総長一体での辞職を主張した。

翌二二日、閣議開催前に小機軍務局長が若槻首相に、朝鮮軍の行動に関する事態の了解を求めたところ、意外にも若槻は、すでに出勤した以上はしかたがない、として容認姿勢を示した。

午前の閣議でも、朝鮮軍の満州出兵に関する支出を決定し、若槻首相はその結果を上奏した。その後、陸相・参謀総長から朝鮮軍部隊の満州派遣追認について上奏、天皇の裁可を得た。（ここに朝鮮軍の独断出兵は、事後承認によって正式の派兵とされたのである。（「昭和陸軍全史」川田稔著、講談社現代新書より。写真は、「満州帝国の興亡」新人物往来社より。）（次回は、関東軍の占領拡大と国内外の状況について記述する予定です。）